

様式第1号

事業再評価シート

事業名	基幹農道整備事業		
箇所名	小田元4期	市町村名	宮崎市（旧高岡町）

（上段（ ）書きは当初計画）

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単		
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度
	H22	R元	(H27) R3
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率 (%)
	(980) 1,262	1,043	事業費      用地 82.6          100
再評価の概要	対象選定理由		事業効果 (B/C)
	事業採択後10年経過		(1.51) 1.33      継続

全体計画
<p>本地区は、宮崎市高岡町の中心部より西方へ約10Km地点に位置し、標高50~190mに展開される田・畑の農業地域である。営農は、肉用牛、大根やきゅうり等の野菜、茶、水稻、飼料作物等の複合経営が行われている。また、本地区は国営かんがい排水事業（大淀川左岸地区）の受益地でもあり、安定的な水供給により、ますます営農が盛んとなる地域である。</p> <p>本地区の農畜産物は、市道・国道を経て集出荷場へ輸送されているが、地区内の農道は狭く離合に苦慮し、流通経路としても機能が発揮出来ず、運搬車両の大型化、輸送距離・時間の短縮、輸送の安全性など輸送合理化の阻害要因となっていることから、本農道を整備することにより、農畜産物の輸送体系の効率化を図り、農家経営の安定に努める計画である。</p>

事業概要
農道工      2,200m

事業目的
<p>○対象事業の目的、必要性 基幹農道を整備することにより、農業輸送のスピードアップと農業機械や運搬車両の大型化を図り、農畜産物及び生産資材輸送の効率化を図る。併せて、農村環境の改善を図る。</p> <p>○事業を継続する必要性 令和元年度までに用地買収が完了し、年度内には開削工事等が完了予定であるため、令和2年度以降の事業内容としては舗装工と付帯工のみである。 また、平成16年度までに起点部及び終点部区間を1期~3期地区において整備済みであり、本地区を完了させる必要がある。 以上のことから、事業の継続は不可欠である。</p>

## 事業の進捗状況

### ○現在の進捗状況

令和元年度末で、82.6%（事業費ベース）の整備が完了予定。  
令和元年度までに用地買収が完了し、年度内には開削工事等が完了する予定であり、令和2年度以降は舗装工、付帯工を残すのみ。

### ○整備効果の発現状況

既採択分は平成16年度までに完了しており、本地区が整備されてはじめて農道の効果が発揮されることから、農畜産物輸送の効率化を図るため早期の整備が望まれる。  
なお、既採択整備済み区間においては、安全な車両通行及び大型農業機械の導入が図られ効率的な農業に寄与している。

### ○事業が長期化している要因

計画路線内に埋蔵文化財包蔵地「本永寺原遺跡」があり、平成26年に実施した試掘調査結果から埋蔵文化財調査が必要となり、これにより事業の進捗が遅れた。

なお、関係当局との協議により調査箇所まで乗り込める年度まで調査時期を待つ必要があり、平成30年度に調査（令和元年度以降室内整理作業あり）を実施した。

### ○今後の事業進捗の見込み

道路整備は令和2年度までに完了する予定であるが、埋蔵文化財の発掘調査後の室内作業が令和元年度から令和3年度までに実施されることから、事業完了は令和3年度となる予定。

## 社会情勢等の変化

### ○事業を取り巻く社会情勢等の変化

- ① 担い手の減少や高齢化の進行。
- ② 国際化の進展に伴う農産物価格の低迷への懸念、食の安全・安心、品質への関心の高まり。

### ○受益者の意識

- ① 農業従事者の高齢化により、新規就農者や規模拡大の担い手農家への作業受託が増加している。
- ② 農道を整備することにより、農産物輸送経費の削減や荷痛み軽減による品質低下の防止が図られるため、早期整備が望まれている。

## 事業効果の分析

### ○費用対効果

費用対効果は、1.33である。

### ○事業を継続することの事業効果分析

本地区が整備され全線開通してはじめて農道の効果が発揮されるが、開通により以下のような効果が期待される。

#### 【発揮される効果】

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| ①集出荷場までの距離、時間短縮  | ②農産物の荷痛み減少      |
| ③大型農業機械の導入       | ④大型車両による効率的な入出荷 |
| ⑤生産物・資材等の効率的な搬出入 | ⑥農業用車両の安全な運行    |
| ⑦耕畜連携の推進         | ⑧生活道路の確保        |
| ⑨国道268号災害時の緊急迂回路 |                 |

なお、一里山地区は国営大淀川左岸地区の受益地で畑かん施設や堆肥化施設が整備され、畑作や茶と畜産を組み合わせた営農が行われており、一里山地区の畜産農家が深水地区をはじめ近隣地区との耕畜連携を図っていくうえでも基幹農道の整備は重要である。

## コスト縮減

- ① 再生資材（再生クラッシャーラン、再生アスファルト）の積極的な活用。
- ② 地形条件や経済性及び地域住民の意向を踏まえた幅員の見直し。

## 代替案の可能性

- ① 令和元年度末で82.6%が完了予定。
- ② 平成16年度までに、全線3,530mの内、1期～3期地区までの1,330mについて整備が完了しており、本地区の2,200mについても、今年度までに開削工事等が完了する予定である。  
令和2年度以降に残る舗装工と付帯工を整備し全線開通させることにより農道の効果が発揮されるため、代替案はない。

## 対応方針

継続

位置図（管内図）

基幹農道整備事業小田元(4期)地区位置図

